



日吉アワード2020

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

海外事業



日吉アワード2020を開催 ~3名のインドの研修者が受賞~ 2020.11.19

日吉は1990年代より30年以上に渡りインドを拠点とした社会貢献活動を続けています。今年は新型コロナウイルスの影響で毎年インドで開催しているスピーチコンテストやインターンシップが中止となりました。そんな中、「日吉アワード」受賞者が選ばれました。この表彰はインドで環境に関するすばらしい基礎研究と応用研究を行った研究者に贈られる賞で、今年で13年目を迎えました。残念ながら表彰式は開催できませんでしたが、ウェブでのインタビューを実施、受賞者には記念の盾と副賞が贈られました。



受賞者の声
環境大賞に選ばれ、大変光栄です。私はPOPs（残留性有機汚染物質）とマイクロプラスチックに関する研究をしていきたいと考えています。そして研究を通じて、インドの環境問題解決に貢献していきたいです。（Dr. Paromita Chakraborty）

表彰	受賞者	所属	研究
環境大賞	Dr. Paromita Chakraborty	SRM Institute of Science and Technology (准教授)	農業、化学物質など有機汚染物質の移動について
Think of Ecology賞	Dr. M. Rajkumar	Bharathiar University (教授)	気象変動生物学、ファイトレメディエーション
若葉賞	Dr. Santanu Mukherjee	Shoolini University of Biotechnology and Management Sciences (助教授)	富栄養化及び重金属汚染のバイオ材料によるレメディエーション



海外インターンの気になるその後 Vol.1 2020.10.15

毎年50人以上の海外研修生を受け入れており、これまでに36か国から1,000名以上の研修生が来日しました。彼らのその後は、環境の専門家、研究者、弁護士、新聞記者、起業家などさまざまです。今回、そんな研修生の一人、インド・アッサム州出身のジャガナス（Jagannath Biswakarma）にインタビューをしました。

インターンシップの思い出 2009年大学3回生の時にインターンとして来日、日吉での研修ではじめて環境問題を知りました。言葉の壁や食事など異文化への対応は大変でしたが、みんなとても親切でした。

インターン後について 実は日吉インディアが設立時、立上げメンバーとして働いていましたが、研究者として進みたい夢をあきらめきれず、単身でスイスUniversity of Zurichへ留学。それから7年、現在はポストドクとしてETH Zurich大学で「鉄や有害金属の植物による吸収」について研究をしています。来年はアメリカのハーバードでのポストに招かれています。これからも環境に役立つ研究を続けていきたいです。

最後に一言 今の研究者としての自分があるのは日吉のインターンシップに参加したからです。とても感謝しています。今でも日吉ファミリーの一員であること、とても嬉しく思います。

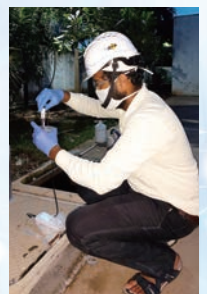


連載 日吉インディアNOW

インドの水処理事業の実態

水不足の観点と環境汚染の観点から、汚水処理、再利用は重要ですが、インドでは汚水の約7割が未処理のまま放流されていると言われています。日吉インディアは2018年からインドで生活排水処理施設（STP）の維持管理事業を行っています。排水処理施設は設置されていても、正しく機能していないケースが多々あります。設計から維持管理まで正しい知識のある人が少ないのが大きな課題です。

日吉インディアの水処理事業の中心を担っているP. Chibibharathは、2017年に日本で研修を受け、常に日本の技術者と連絡を取りながら現地の施設管理を行っています。日本品質の技術が評価され、今年度の業績は昨年度比200%以上を達成することができました。



国内事業・学会

第25回生物化学的測定研究会学術シンポジウムを開催 2020.11.06

弊社に事務局をおく生物化学的測定研究会にて、「脱コロナ禍に向けた生物化学的測定の挑戦」と題し、第25回となる学術シンポジウムをオンライン開催しました。

SARS-CoV-2*に関する北里大学大村智記念研究所ウイルス感染制御学の片山和彦教授をはじめとする各分野の専門家をお招きして、SARS-CoV-2の抗体やワクチンの開発、ウイルス検出への取り組みの最前線についてご講演いただき、脱コロナ禍に向けた研究会の今後について考える場となり、盛況のうちに閉会しました。

*SARS-CoV-2は、新型コロナウイルス感染症の正式名称であるCOVID-19のウイルス名



生物化学的測定研究会の取り組み

本研究会は、生物機能や生物素子などの生物化学的特異性に基づく測定方法を利用した化学物質などのリスク評価、管理を目的に研究開発することを支援し、それらの普及、標準化、公定法化などを進めている1996年設立の研究会です。対象とする媒体は、環境・食糧・ヒトと生態系、物質はPOPs・残留農薬・抗生物質・サプリメント・毒素・重金属・その他、幅広く取り組んでいます。活動は、主に年2回の学術集会、年報の発刊などがあります。弊社は、2018年より事務局として活動をしています。

是非、ご興味のある方は、学術集会への参加、発表、企画提案等への参画をよろしく願います。

■お問い合わせ
研究会事務局 榎日吉内 担当 中村
生物化学的測定研究会



表彰

NEXCO中日本より表彰されました 2020.10.01

中日本高速道路㈱名古屋支社長より 管理部 施設1課 係長の戸田社員、田中社員、小山社員が、CS優秀賞を受賞しました。東郷パーキングエリアのトイレに車の鍵を流してお困りのお客様がいるとの通報を受け、専門知識を活かした対応により短時間で無事に鍵を発見したことに対しお客様から感謝の言葉をいただき、他の模範となるものと認められ、功績を称えられました。



滋賀県計量協会より表彰されました 2020.6.26

一般社団法人 滋賀県計量協会より、技術部 分析研究課 課長の中田社員が多年に亘り計量関係業務に精励し優秀な成績を挙げ産業の振興に尽くした功績を称えられ表彰されました。



社会貢献

オンラインで環境ごみ学習を実施 2020.7.20

毎年当社は、地域の小学生を対象とした「環境ごみ学習」を行っています。今年は新型コロナウイルス感染症を懸念し、環境部 主任の平井社員が自ら撮影を行ったDVDを配布する方法をとりました。

お礼のお手紙には「事故を防止するためのごみ収集車の仕組みがすごい!」「自分の分別の甘さが事故につながると知った。」など、廃棄物処理やリサイクルへの興味や関心が伺えます。



「びわ湖の日」環境美化活動へ参加 2020.7.15

滋賀県東近江環境事務所が主催する「びわ湖の日」環境美化活動へ新入社員が参加し、湖岸道路付近のごみ拾いを行いました。

今年は、当社を含め40社、約100名が参加していました。普段車で通ると綺麗な道に見えますが、歩いてみるとたばこの吸い殻や、細かいプラスチックが多く落ちていることに気づきます。そういった小さなゴミが川や琵琶湖へ流れることにより、環境汚染につながるのだと改めて感じました。



森林整備ボランティアへ参加 2020.10.31

滋賀県環境保全協会が主催する森林整備ボランティアに、当社社員が参加しました。

本ボランティアは今年で3回目の開催となり、今回は以前植樹を行った木々の周りに生い茂る植物の除去をする作業を行いました。この活動を通して、温室効果ガスの削減並びに琵琶湖の重要な水源である滋賀の森林の保全につながっていくと考えると非常にやりがいを感じました。



- 用紙: 琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造: 廃業に発生するCO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量: 245kg/3,000枚